

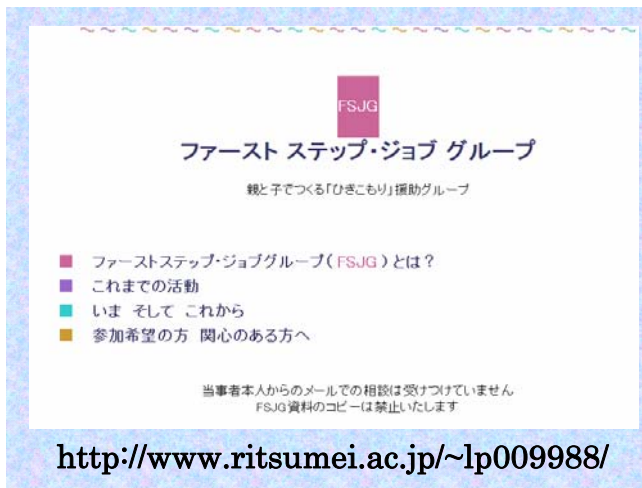
FSJG 特別例会「いつでも最初の一步」

ファーストステップジョブグループ/立命館大学人間科学研究所後援

特別例会 (2005.10.9 クレオ大阪東)

上田陽子 (ファーストステップジョブグループ)

望月昭 (立命館大学文学部 教授)



司会：はじめまして、FSJG のメンバーの T と申します。きょうは司会を務めさせていただきますけれども、なにせはじめてなのでお聞き苦しいと思いますが、どうぞ最後までよろしくおねがいたします。今日は本当にいいお天気になって、こんなにたくさん来ていただけたらと思っていなかったものですから。メンバーとも 10 人ぐらいかなと言っていたのですが、こんなにたくさんきていただいて、本当にありがとう

ございます。連休の中日なので本当ならどこかにおでかけされているような日だと思います。だから、今日一日来てよかったという日にしていただければいいと思います。

今日の段取りですが、最初は FSJG の代表の上田から、いままで 3 年間の活動とか、そのいろいろ話させていただきます。そしてその後に、ファーストステップが日頃いろいろとご協力いただいています立命館大学の望月先生にお話をさせていただいて、そのあと休憩をはさみまして、フリートークという形でメンバーと、それから青年問題に詳しくて、ドーナツトーク社をされていまして、淡路プラッツの代表でもあります田中俊英さんをまじえてお話しいただきます。その後皆さんの質問とか受け付けていこうと思いますので、だいたい 4 時半ぐらいを終わりの予定としています。いろいろとご意見いただけるようによろしく願いいたします。ではさっそくですが、上田のほうから報告させていただきます。

FSJG これまでの経過

上田陽子 (FSJG 代表/立命館大学応用人間科学研究科)

上田：上田です、よろしくお願ひします。活動報告をこれからさせていただくのですが、じつは私は強度の近視と乱視なんです。いつもコンタクトレンズを使っているんですが、右目をいためて今日はレンズが入ってなくて、皆さんのお顔もしっかり見えていない。

見えていないのがいいのか悪いのかちょっと悩ましいところですが。

FSJG とは？

■ ファーストステップ・ジョブグループ (FSJG) とは？

- 従来の「親の会」や「自助グループ」のようなグループではありません。
- ひきこもり当事者である親と子でつくるグループですが、親が活動の中心の混
- 当事者である親と子でジョブユニットをまず作り、親が自分の子に仕事を提供するという関係の中で最初の仕事行動を成立させていくというものです。
- 当事者の現状や援助の現状を踏まえた上で、長期化した「ひきこもり」を対象を考えた場合、「開かれた」社会との関係性において現時点での「できる部分」的に第一歩を考えることが重要であると思います。今の「ひきこもり」のまま係に積極的にかかわる行為として、また、与えられる(given)のではなく自ら得になる「仕事」の配置が必要な援助だと考えます。
- これは、一般的な就労形態へ向けての「スキルの訓練」とも異なります。とくに「まず社会参加」のそこへつながる「はじめの第一歩」のところにここ
- つまり、「行動機会の保障」と「正の強化の環境の中で暮らすことの保障」という形で「ひきこもり」に対応していくというものです。
- 2002年8月、趣旨・方向性を共有できる当事者親子5組でグループを立ち上げた実践をおこなっています。このような援助が環境にないからこそ環境に

FSJGの3年間の活動がどのようなものであったか、その展開を話していきたいと思います。その前に、FSJGについては既によく知っておられる方もいらっしゃると思いますが、FSJGとはどういうものなのか説明して、その後活動の展開を報告したいと思います。

FSJGの「ひきこもり」: FSJGとは、という話になりますが、その前に二つだけ話しておきたいことがあります。一つは、どのような「ひきこもり」を対象にしているのかということです。「ひきこもり」は多様で個別的ということはみなさんご存知だと思います。「ひきこもり」の定義についてはここでは話しません。ただ、どのへんの「ひきこもり」をFSJGでは対象にしているのかについてだけ話しておきます。「ひきこもり」はきっかけや背景や、元の生活状況、今のひきこもり状態などが様々なのは知られています。メディアに出て発言するような「ひきこもり」から、家の外には出て行かないけれども家のなかでは普通の生活をしている「ひきこもり」、家の中でもまた自分の部屋にこもっている「ひきこもり」まで様々です。

「ひきこもり」は長期化すればするほど問題行動はおさまっていきます。で、要するに日常そういうような問題行動は起こらない、とにかく放っておけば何事もなくだら一っと、風のような生活が続いていくような「ひきこもり」がいます。だいたいそのような「ひきこもり」が対象なのですが、それゆえに問題は深刻なのです。長期化してしまっている「ひきこもり」を指して、「安住してしまっているのね」と言われた人がいるのですが、決して安住していない。だから深刻なんです。親は支援機関にかつて行っていた、または今も行っている、本人もかつて行っていた。そういうような、例えばフリースペースなど支援機関へ行っていたのですけれど、そこで提供される支援ではどうにもならない、にっちもさっちもいなくなってしまう、そういう「ひきこもり」を対象としています。

親による実践: もう一つ、そのまえに言っておきたいことなんです。「親がする」ということについて問題点がいくつかあります。要するに倫理的な問題です。親は客観的にできるのか、母子密着の問題をはらんでいないか、データの捏造はないか、親がやっているのを捏造しようと思えばできます。「わたしたちのグループはこんなことができました」と。それから、子のプライバシーの問題です。親が分かれば当然子は特定できます。先に言った3つの問題は、方法、仕事の成立を援助すること、先ほど紹介していただいた先生

とかの外の専門家に報告すること、複数の者による記録、でクリアーできていると思っ
ています。ただ 4 つ目のプライバシーの問題についてはずっと考えていかなければなら
ない問題
と思っています。

そういう問題点を認識した上で、今、一番近くに存在する、また、今、唯一接触できる
社会資源として「親」を利用しようと親自身が考えたものです。

グループの構成と活動： 次に、「FSJG とは」について説明します。グループのメン
バーはひきこもり当事者の親と子で構成されています。これから「子」とか「子ども」とい
う言葉を使うのですが、メンバーは全員成人です。成人に「子」という言葉を使うのはへ
んな話なんです、一応、親に対する子という意味で使っていると思っ
て誤解しないでく
ださい。

最初立ち上げる前、2002 年春に、私が「FSJG の提案」として発表しました。それを先ほ
どの田中さんたちが親の会とかで宣伝してくださって、グループメンバーを募集しました。
グループ結成は 8 月で、活動開始は 9 月から。だからちょうど今年で 3 年になります。そ
のときのメンバー親子 5 組で始めました。途中この 3 年間でメンバーの入れ替わり、卒業
があっ
て、現在は 4 組で活動しています。一応、グループに在籍したことがあるのは 6 組、
本人は 6 名です。これから話していくデータについてはこの 6 名をもとにしたものです。
ひきこもりの年数は 10 年から 20 年。年齢は 21 歳から 41 歳。「当事者グループ」ではあり
ますが、当事者同士が集まって、悩みを話して、受容・共感するという、よくある従来の
親の会とか自助グループとは違います。そのようなグループを否定するのではありません
し、そういうグループが必要なときがあると思っ
ます。特に子どもがこういう状態になっ
た初期の頃は、そういうグループは大事だと思っ
ています。

できる部分に注目する： でもこのグループはちょっと違って、長期化した「ひきこも
り」を対象に社会参加に向けて自発的な行動を促していくという目的をもつグループです。
「ひきこもり」について一般的に言われることとして「コミュニケーションが苦手、うま
くできない」というのがあります。そこで、仲間が集まってわいわい共に一緒にやること
によってそういう力を身につけよう。身につけたうえで世の中に出ていこうということが
よく言われます。だいたい基本的にはこれです。これも否定はしませんし、そういうのが
必要な場合もある。善し悪しは一概には言えませんが、ある意味これは、「できない部分」
に注目しています。コミュニケーション能力の問題は別として。それから、仲間集団とい
う閉じた社会の中で訓練していくことです。でも私はそうではなくて、今「できる部分」
に注目し、開かれた社会の中で、これからより良い方向に向けてどうやっていけばいいか
を具体的に考えることが大事だと思っ
ます。そこで、ひきこもりのままででき、社会との
交換的關係に積極的に関わることとなり、一方的に与えられる（ギブン：given：後述の望
月の発表参照）のではなくて、自分の力で得る（ゲット：get）ことになる仕事を提供し、「仕
事をする」を援助していくことが大事だと思っ
ます。

仕事をどう考える？ 次に仕事についてですが。これは、当事者の生活をみてもわかる

ことがですが、ある程度長期化して年齢がいつてしまうと、「ただ飯をくわせてもらっている、親に面倒を見てもらっている、親から小遣いをもらっている」という後ろめたさを本人が感じていることを、一緒に住んでいる家族ならひしひしと感ずます。他の親御さんもそうなんじゃないかと思ひますが。本人は口にはださないけれど。また、一人、本人が私に言ってくれた話ですが、昔アルバイトをやっていたという話で、「アルバイトをやったことがあるのですよ」と本当にうれしように繰り返して話してくれました。でも、アルバイトと言っても、いわゆるその辺のアルバイトではなくて、本当に1回・数時間、ちょっと手伝ったという仕事です。それから、あるお母さんからは、そこの当事者本人のことですが、親戚のうちの仕事を手伝って、そのときもらったアルバイト代の入っていた袋を今も大事にとってあるという話を聞きました。やっぱり「仕事」を提供すること、「仕事をする」を援助することは大事ではないか、必要ではないかと思ひのです。

だから、この仕事というものは、ひきこもりのままでできる仕事、やってもやらなくてもいい、途中でやめてもいい、ドタキャンもOKというような仕事です。要するに、就労に向けての訓練とは違ひます。世間では、そんなムシのいい仕事はないよとか、そんなの仕事とは言えないよということになるのですが。言い換えれば、徹底的に自分で決めることを尊重した状況を提供するということになります。ひきこもりの抱える問題というのは社会参加の困難ということですが。でもこれを解決するには、社会参加するしかないのです。本人にとっては酷い話だと思ひますが。だから、その最初の社会参加につながる「はじめの一步」のところ私たちのいう「仕事」を置くのです。グループの名前、「ファーストステップ・ジョブグループ」もここからきています。

FSJGの活動は

仕事の内容： 次に、活動の報告に移っていきたく思ひます。まず、親と子でジョブユニットを組みます。家事手伝いを仕事として設定します。そして、親が自分の子に仕事を提供するのではなくて、グループの他者の子に仕事を提供するという関係の中で最初の仕事行動を成立させて展開させていこうというものです。仕事内容ですが、家事手伝いからはじめて、具体的にあげていきますと、換気扇の掃除、物置片付け、草取り、CDをテープに変換、手書き原稿をワープロで打ちなおす、英絵本の和訳、猫の写真を撮る、テレビ番組の録画、フリーマーケットの手伝い。これらはグループ内でそれぞれの親が提供した仕事です。だんだんやっていくうちに、外からも協力しようという団体や個人がありまして、小学生ドリルの添削とか、保育園の花壇柵用のかまぼこ板にペンキを塗る仕事とか、プラモデルの展示とか、大きな仕事としては、ある団体が持っているキャンプ場のペンキ塗りという仕事がありました。キャンプ場に設置されているテーブルとイスのペンキ塗りです。

グループ内から外部へ： 仕事の移り変わりも説明しますと、最初は、先ほどのような家事手伝いから始めていって、内職もいいんじゃないか、次には、本人に見合った仕事を

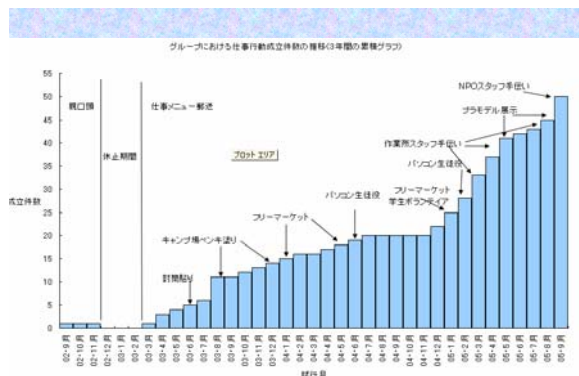
考えていこうじゃないか、その次には、キャンプ場のペンキ塗りのように、他所から提供してもらった仕事もするようになりました。また、あとで説明するんですが、パソコン生徒役という仕事がありました。パソコンを使っての仕事ですが、本人の家ではなくて、その仕事提供者の家でもなく、パソコンルームの施設を利用してやってみよう、その事がひとつ外へ出て行くことになるんじゃないかと、そういう仕事に展開したこともあります。一番最近では完全に外の仕事があります。協力してくれる団体からの提供です。仕事内容は本当の仕事なのですが、条件がいわゆる一般のアルバイトとは違う仕事です。そんなふうだんだん仕事内容もグループの内から外へと展開していっています。

仕事の選択肢提示の方法： 次に、仕事成立までの流れを話していきます。今さっき言ったような家事手伝いに始まるような仕事を、列挙されたのを、10~12 個（件）ぐらい仕事メニューとして載せ、それを毎月 1 回定期的に本人宛に郵送します。その仕事メニューの中の 1/4（3 個ほど）は新規仕事を、残り 3/4 は繰り返し提示します。また、「今はやりたくない」「返事をしたくない」「この方法に参加したくない」といった否定の選択肢を入れます。これは本人が決めることを尊重してのことです。それを本人に郵送します。本人がそれを見て、その中に自分が今やってもいいなという仕事があった場合に、やってもいい仕事にチェックを入れます。チェックを入れてまたこちらへ返します。返ってきた仕事メニューを見て、もしそれが内職であれば内職を本人宛に郵送します。よその家でやる仕事の場合には仕事の手配とか段取りをつけます。そのあと本人が仕事を行ないます。行なったあとすぐに本人に賃金を郵送します。本人宛に現金書留で。そこには「手伝ってくれてありがとう、助かりました」という言葉を添えます。ここでもって仕事行動成立、完了です。ここで一つ仕事ができたということで数えています。

賃金相場は？ このほかに、賃金をどのぐらいにしているかということですが、大き目の仕事は 1000 円、小さ目は 500 円が基本です。上がることはあっても下がることはないです。じゃあそんな値段だったら、「世の中に出ていったらそんなことでお金はもらえない」「現実にはそれほどの賃金は貰えないことを分からせる必要があるのでは」といわれるかもしれませんが、これは就労に向けての訓練ではないんですから。本人も世間相場と違うことは分かっています。だからその心配は無いと思っています。

他にグループの活動としてフリーマーケットに出店しています。3 回参加したんですが、お正月開けにやるのが恒例化していて。それを待っていてくれる人がいて、「今年はいつするの」と言ってくれるのは本当にありがたいです。フリーマーケットに出店する目的は、一つはグループみんなで楽しもう。楽しみという意味で。もう一つは資金を稼ごう。グループは実は会費でしか動いていないので。もう一つは仕事創出の場として、仕事が創出できるので。荷物を運ぶ係り、商品陳列係り、つり銭係り、値札を書く係り、会場撮影係り、など仕事を本人に提供できます。そういう狙いがあるってフリーマーケットに出店参加しています。特に今年 1 月はグループメンバーだけじゃなくて学生のボランティアも参加し、当事者二人も参加しました。同じような若者も一緒になってできた。これは本当によかつ

たと思っています。



グループ全体の仕事成立（3年間の累積グラフ）
および仕事（ジョブ）内容

うちは傾斜が緩やかなんです。毎月誰かが1回は仕事をしているという程度。その次、ちょっと停滞した時期があります。何故停滞したかという、グループ内での仕事には限界がある。仕事メニューそのものの選択肢が増えなかった。本人から見ればマンネリ化した。もう一つ、コンスタントに仕事をやっていた当事者が夏に遠くの親戚へ行ったのです。それは「仕事をする」ことにはならないけれど、これまでのひきこもり期間で初めてのことであり喜ばしいことと考えました。この当事者が仕事をしなかったことも重なって去年の夏から秋にかけて停滞してしまっただけです。そのあと急にガーンと角度が急になっています。これは、毎月複数の仕事をし出したということです。外から協力してくれる団体・個人が出てきて、いろいろ仕事を提供してくださり仕事が増えた、そうすると選べる仕事が増えて本人たちもやりだした、それでこのように勾配が急になっていったということです。

仕事事例1：パソコン教育の「教わり役」：ここに先ほど言ったパソコンの生徒役という仕事があります。04年の6月ですか。これを例にとり、具体的にFSJGの仕事はどのようなものか、もう一度説明します。この本人は仕事メニューの中のパソコンに関連する仕事に返事をしてきました。でも家にはパソコンがない。どうしてなんだろうと感ったのですが、パソコンに興味があるんじゃないかと推測して、パソコンに関連する仕事を設定することにしました。パソコンの指導者が初心者向けの指導法を考えて、その教え方の協力者つまり生徒役をやってくれる人、そういう人を求めていますという仕事を出しました。仕事依頼者は作業所で利用者さんにパソコン指導を仕事としている人で、一応プロですし、この仕事で得られたものが職場に持ち帰って役に立つからと協力してくれたもので、まったくのどっちあげ仕事ではありません。条件は、週1回、1回につき2時間、3回で1つの仕事として、1回でやめてもいい、ドタキャンもOKとしてです。

これも他の仕事と一緒に仕事メニューで提示しました。本人はこの仕事をやってもいいとチェックをいれて返してきました。3回ともきっちりできました。親からの報告は「3回とも自分ひとりで支度をして家をでていった」。先生役からの報告としては「3回目には冗談を言えるようになった」です。で、この仕事なんです、一応、目標は仕事「パソコン生徒役をする」ことなんです、実は、FSJGの目的は社会参加へ向けて自発的な行動を促

仕事の実績：この3年間通して、仕事行動が成立した件数は50件。延べ数です。本人の数は6名。ばらつきはありますが、一応みんな全員が何らかの仕事をやったことになります。ここでグラフを見せて説明します。これは、グループ全体の仕事の成立した件数の推移です。累積グラフなので、棒グラフとして見ないでください。頂点を、階段状になっているところを見てほしいですが、はじめの

すこと。これに照らせば、「人と話をする」等といった社会的な行動が含まれる「仕事をする」が目標行動で、「仕事をする」を通じて社会と関係を持つ、といった状態を作ることが目的と言えます。実際それができたわけです。そのために、我々はいろいろな仕事の選択肢をいっぱい広げて提示しているということになります。今回の場合、本人は様々な仕事の選択肢から、パソコン生徒役を選んで、それをやるために家を出て、そこで人と話をし、そして、自分の力で賃金を得たのです。

FSJG の仕事というのは行動の機会を提供することなのです。先ほども言ったように、就労に向けての訓練ではなくて、自発的な行動を促すのが FSJG の仕事なのです。だから、FSJG の「ファーストステップジョブ」というのは行動の機会の提供だと言えます。このような経験を積み重ねることによって、より社会に向けて行動が広がっていくことになる、社会に向けて出ていけることになると考えています。

この本人ですが、その後、街のパソコン体験教室に行きました。それを聞いて、初期の目的の「自発的な行動を促す」ということからちょっと外れるのですが、パソコンのスキル獲得を目指して、今年の 2 月、内容をちょっと変えて、パソコン生徒役中級編という仕事を出しました。本人に提示するのは同じような条件ですが、内容は中級編ということでワード・エクセルの初歩です。この仕事もできました。最近、知らせを受けたのですが、本人はアルバイトに行きだしました。アルバイト見習いという形で、仕事内容はパソコン入力です。これでセカンドステップに向け歩み出したと言えます。我がグループの卒業生です。

仕事事例 2：作業所、そして NPO 事務所の手伝い： もう一つの具体例ですが、作業所スタッフ手伝いという仕事があります。これも大きく動き出したところの一つのきっかけになった仕事です。病院の横に併設されている作業所から提供してもらった仕事です。週 1 回、1 時間の仕事ですが、これを 6 ヶ月続けることができました。1 週間に 1 回を一つの仕事として、週ごとに本人に選択させる形で、だから週ごとに辞めたかったら辞めてもいいということで。それが 3 ヶ月続いて、3 ヶ月過ぎたところで今度は条件を変えました。1 週間に 1 回を 1 ヶ月続けて一つの仕事としました。結局グラフが少しへこむんですが、仕事そのものは同じですが、カウントの仕方を変えたのでそういう形になっています。でも 1 ヶ月単位ということは、引き受けた限りは 1 ヶ月続けることになります。本人としてはキツかったかもしれない。もちろんドタキャン OK で、でも 1 ヶ月単位で提供しました。そうしたらそれも 3 ヶ月続きました。結局は 6 ヶ月続いたことになります。これは画期的なことだし嬉しいことです。が、作業所はいくら街の中にあると言っても、ある意味、そこは閉じられた社会です、関係者しか出入りがない。それで、より開かれた一般の人が出入りするようなところで、仕事内容も広がっていくような展開を考えました。次に、そういう仕事を提供しようという NPO がありまして。今はその NPO スタッフ手伝いとして仕事をしています。要するにボランティアスタッフ手伝いです。条件は作業所と同じです。



個人別に推移をみると： で、次に面白いグラフがあるので。これは個人別の累積グラフです。さっきは棒グラフですが、これは折れ線グラフ。一目瞭然なのは、いかに個別であるかということ。でもみんな動き出しているということも分かってもらえると思います。ちょっとだけ説明していきますと、ピンクの人は、

ずーっと動いていなかったのが、あの辺からガタガタっと大きく動きだしている。それに比べて、この当事者は毎月だいたい1回ずつ仕事をしている。最初仕事をし出したのは03年の9月なんです。ちょうど1年目になる。グループの仲間に入って要するに1年たって初めて仕事をした。

緑の当事者Cは、割りと早く1回目の仕事をぼこっとやりました。その後はかなりスローペースで。ゆっくり一つやってはまた一つと。

もう一人の当事者。当事者Bですが、この本人はずーっと仕事をやっていない。最初からのメンバーなんですけど全然仕事をやっていなかった。3年たった今年の5月に初めて仕事をした。そうすると8月、9月にも仕事をやりました。仕事をやっていないといっても全く無反応ではなくて何らかの反応はあります。ただこのグラフそのものは仕事をしたものだけカウントしていますので。

それから、この当事者Eは、昨年の11月からメニューを送り始めたので、グラフそのものは短い。早くも4回目に仕事をしているので、これから楽しみだなと思っています。

この当事者は、活動から1年目に本人の都合ではなくて家の都合で脱会された。だからデータはここまでしかありません。でも、一応、仕事は調子よくやっていました。

それから右半分ですが、全体のグラフと重なるんですが、去年の暮れから今年に入って、みんながよく仕事をしている。それは何故かということ、この時期やっぱり外の仕事をもらえたから、選択肢が広がったということだと思います。家事手伝いではなくて、いわゆる外仕事に近い仕事が増えたということなんです。やはり、ずーっと本人たちが仕事をしなくても絶えず機会は提供し続けることが大事だということ、選択肢を広げていくことが大事だということ、が言えるのではと思います。そうやっている中で本人が選択して決めてぱっと動き出すんじゃないか、そう考えられるんじゃないか、グラフからはそういうことが言えると思っています。

このようにファーストステップジョブは展開、拡大しています。だから一応成果はおさめつつあると言えます。でも、先ほどの2つの例にもあるように、グループ内から外に出る、次の展開としての仕事が必要になります。今は協力していただいているNPOや作業所

のようなところがあって助かっていますが、こういった社会資源と連携していくことがこれからの課題だと思っています。

もう一つの課題は、今ここでも話しているようなことも含めてですが、情報を必要としている人にどうやって届けるか。それはただ、当事者本人とか家族とかだけではなくて、援助を考えてくださる方、そういう仕事を提供してもいいよと考えてくださる方を含めた、必要としてくださっている方にどう伝えるかが私たちの課題です。今日の勉強会は、こういうことを報告することによって情報も発信できる機会になればとも思っています。また、自分たちのやってきたことを振り返り見直す機会になればとも思っています。報告は以上です。どうもありがとうございました。

司会：おつかれさまでした。ありがとうございました。時間もないので引き続き、立命館大学の人間科学研究所の所長さんでもあります、望月昭先生から行動分析学の立場からということでお話いただきます。よろしくお願いします。